

パレイシヨ茎葉処理機を利用したエダマメの収穫



既存機械で省力化

エダマメの定植・収穫

現場で使える！研究成果

エダマメは最近15年間の野菜の産出額増加率ランキングで、ブロッコリー、タマネギに次いで増加している人気の品目である。そこで、エダマメ

の黒マルチ栽培において既存の農業機械を活用した苗の定植作業と収穫作業の省力化について試験を行った。

パレイシヨ栽培で普及している歩行型の茎葉処理機を使用し、手作業で行った場合との作業時間を比較した。その結果、機械収穫では莢の割れなどの障害莢が約5%程度発生したものの、収穫作業時間は手作業と比較して約50%削減できた。

定植作業は慣行の200穴セルトレイに1粒まきした苗の株間15センチの手植えと、128穴セルトレイに1セル2粒まきした苗を株間28センチで野菜半自動移植機を使用した場合とを比較した。その結果、移植機を使用した場合の収量は手作業と比較して同等からやや劣る程度だったが、省力化を図ることができた。

1セル2粒まき栽培では1セル内で1粒しか発芽や生育しない場合があるので、単位面積当たりの収量を高めるには初期活着を高めるための適切な植付深度の確保や、灌水作業をしっかりと行う必要がある。

収穫作業は長崎県のバ

（農林技術開発センター）畑作営農研究部門
小川哲治

エダマメの収穫方法の違いと作業時間

